

小学校第5学年 国語科学習指導案

期 日 平成27年6月19日(金) 第5校時
 場 所 山鹿市立山鹿小学校 5年3組教室
 指導者 教諭 吉良 明子

1 単元名

「広がる、つながる、わたしたちの読書」(光村図書)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校国語科学習指導要領「読むこと」の目標「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせると共に、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」を受け、自分の読んだことのある本を人に薦めたり、薦められた本を読んだりすることで読書の新たな魅力に気付くことを目的としている単元である。読書をするという言語活動自体に本の内容を理解する力が発揮される。更に、本を人に薦めるという言語活動には、その本が持つおもしろさや魅力の理解が必要となる。当然、そのおもしろさや魅力を理解するためには、本の内容や表現、文章構成などの理解が必要となる。本の持つおもしろさや魅力を人に薦める言語活動は、まさに「読むこと」の目標を達成を目指すことのできるものだと考える。

また、おもしろさや魅力は主観的な感想である。その主観的な感想は、小学5年生にとって漠然としがちである。自分の感じたおもしろさや魅力について、なぜおもしろいのか、なぜ魅力があるのか、果たしておもしろいと言えるのか、など自分の考えを新たな視点を持って検討し合うことで自分の考えが広がったり、深まったりすることも期待できる単元と言える。

(2) 系統観

第4学年(10月)	第4学年(2月)	第5学年(6月) 本時	第5学年(9月)
ごんぎつね	初雪のふる日	広がる、つながる、わたしたちの読書	からたちの花

教材名	指導事項・言語活動例	C読むこと									
		指導事項					言語活動例				
		ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。	イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。	ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。	イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。	ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。	エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。
なまえつけてよ				◎	○						
新聞を読もう		◎	○							★	
見立てる／生き物は円柱形			○			◎				★	
広がる、つながる、わたしたちの読書／千年の釘にいどむ(著作権について知ろう)						○	◎				★
からたちの花		・		◎							
大造じいさんとガン		○		◎	○						
天気を予想する(グラフや表を読む)			○			◎				★	
百年後のふるさとを守る		・	・			○	◎	★			
詩の楽しみ方を見つけよう		◎			○						
想像力のスイッチを入れよう(直接対面しない相手とのやり取りでは)				◎		○				★	
見るなのざしき				◎							
わらぐつの中的神様(方言と共通語)				◎			○				

(3) 児童観

- 本学級では、「自分から進んで本を読んでいる」児童が26人と半数以上おり、読書に対する意識は高いと言える。また、「好きな本の種類」は、歴史の本やスポーツの本などである。ただ、図書の貸し出し状況からは、学習漫画に偏っていることが分かり、活字を中心とした本へも興味を高める必要がある。
- 意識調査の結果から、「国語の学習をしてよく分かった」と思う場面では、「自分の考えを発表できた時」「グループで話し合った時」が、「先生から説明された時」より意識が高く、発表場面やグループでの話し合う場面を設定する必要がある。
- 熊本県学力調査の結果から、国語科の「関心」「話す・聞く」「読む」「言語文化」の観点において県平均を上回っている。「読む」ことについては、目的や必要に応じて文章などを引用したり要約したりする内容の定着率が60.8%であり、県平均を大きく上回っているが、全体の定着率と比較すると低くなっている。

(4) 指導観

- 問題解決の学習過程となるよう、山鹿小学校の読書生活の課題を明らかにし、その課題を解決するという問題意識を高めた上で、本を推薦するという言語活動を行うようにする。
- 児童の主体的な学びとなるよう、ペアや班での学習を多く取り入れ、一人一人が自分の意見を述べる場を設ける。
- ペアや班及び全体での話し合いでは、理解が深まっている児童の意見のみで話し合いが進むのではなく、全員の意見の発言を促したり、出された意見から納得解を見つけるなど、折り合いを付けたりすることを児童に意識させ、人間関係形成の能力も高めるようにする。

【視点1】 学びを引き出す豊かなかかわり合いのある言語活動	【視点2】 学びを振り返る思考過程の可視化と学びの振り返り	【視点3】 学びを支える学びのUD化と効果的なICTの活用
【視点1】 言葉への着目・焦点化 問題解決のための学習過程 (単元を貫く言語活動)	【視点2】 思考ツールの活用 メタ認知を促す振り返りの視点	【視点3】 ICTを活用した根拠の共有化 話し合いを進めるファシリテーションスキル

◇インクルーシブ教育の視点から

【基本的環境整備】

- ・誰もが学習に見通しが持てるように単元や1時間の学習過程を提示する。
- ・単元の目標を児童に意識させたり、前時の学習内容が想起したりできるように学習の足跡を教室に掲示しておく。
- ・板書と学習シートが対応できるようにし、どこに何を書けばよいのか児童がわかるようにし、児童の思考がスムーズに流れるようにする。

【合理的配慮】

(省略)

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	複数の本や文章を読んだ中から、薦めたい本を選び、本を読んで薦めたいことを発表し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
国語への関心・意欲・態度	①本を友達に薦めるといった活動に興味を持って活動している。
読む能力	①本を薦めるために、本を読んで考えた自分の考えを広げたり深めたりしている。(読むこと 才) ②本を薦めるために、複数の本を読んだり、読んだ本の中から選んだりしている。

4 指導・評価の計画（6時間取扱い 本時3／6）

次時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【3つの視点から】	評価の観点（評価方法） B基準
1 1	○山鹿小学校の読書生活から問題意識を高め、本を薦めるといふ単元の見通しを持つとともに、どのような国語の力が必要か確かめる。 ○問題解決のために読むという目的意識を持って、教材文「千年の釘にいどむ」を読み、話の大まかな内容を確認する。	・山鹿小学校5年生の読書生活の実態から課題となる部分を紹介し、その課題を克服しようとする問題意識を高める。 【視点1】 問題意識を高め、その問題を解決するための言語活動として本を薦める言語活動を行うという学習過程を設定する。	関心・意欲・態度①（ノート） 学習の振り返りの場面で、本を友達に薦めるといふ言語活動に進んで取り組みたいという内容の感想を書いている。
2	○教材文「千年の釘にいどむ」から、お薦めのところを紹介し合い、薦める材料を増やす。 広げる	【視点3】 班での確かめ合う活動では、話し合いの注意点を確認し、ファシリテーションスキルを意識して確かめ合うことができるようにする。	読む能力①（学習シート） 「千年の釘にいどむ」の内容から、人に薦める材料を増やしている。
	○教材文「千年の釘にいどむ」から、筆者の立場に立ってお薦めのところを見直す。 深める	【視点1】 教材の提示を工夫することにより、筆者「内藤誠吾」が題名に込めた意図を課題として意識できるようにする。	読む能力①（ノート） 題名からお薦めを見つける視点が明確になったことを書いている。
	○「千年の釘にいどむ」の学習を想起し、自分で選んだ本でお薦めのところを見つけ、お薦めとしてふさわしいか、班で確かめ合う。	【視点1】 単元の最初に持った読書生活の課題を示すことで、問題解決の意識を高めるようにする。 【視点2】 思考ツールを活用して書かせることで、国語の力を意識できるようにする。	読む能力②（ノート） お薦めの見つけ方を意識して、自分の選んだ本の中から、お薦めのところを見つけている。
	○お薦めの本を紹介する練習をし、お薦めのポイント（国語の力）を振り返る。	【視点1】 問題解決のために「本を薦める」言語活動を行うことを確かめ、学習への意欲を高める。	読む能力②（学習シート） 自分で選んだ本のお薦めのところから、いくつかを選んで紹介している。
3 6	○「○○で山鹿小学校に読書の輪を広げよう！」という題目でお薦めの本を紹介し合う活動を行う。	【視点2】 山鹿小学校の読書生活の課題を解決する言語活動となったか、どんな国語の力が付いたのか単元全体を通して振り返る場を設定する。	読む能力①（ノート） これから本を読むときに、何に着目して読めばよいのか自覚したことを書いている。 関心・意欲・態度①（ノート） 今後も進んで読書を行い、本を友達に薦めるといふ言語活動に組みたいという内容の感想を書いている。

5 本時の学習

(1) 目標

教材文「千年の釘にいどむ」から、筆者が題名に「いどむ」を入れた理由を考えることを通して、筆者の立場で自分の考えた本のお薦めの内容を見直すことができる。

(2) 展開 (3 / 6 時間取扱い)

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
つかむ 10分	1 本時のめあてを確認する。 めあて	○前時を振り返り、自分が見つけたお薦めのところにはどんなものがあったか確かめる。	単元計画表
	筆者の立場になって、題名からおすすめのところを見直そう。		
	学習課題 筆者は、題名にどうして「いどむ」を使ったのか？	【視点1】言葉への着目・焦点化 教材(題名)の提示を工夫することにより、筆者「内藤誠吾」が「いどむ」という言葉を題名にした理由を課題として意識できるようにする。	拡大文
見通す 5分	2 学習課題について話し合う。 (1) 自分なりの考えをもつ。	【視点2】思考ツールの活用 教材文に書かれていた内容が「いどむ」であったことを確かめ、「いどむ」を元に文図を用いて考えさせる。 徹底指導 (ポイント) 学習方法や学習課題について、ペアで共通理解を図らせながら作業等を進めるようにする。	思考ツール(文図)
さぐる 10分	(2) 3人組の班で互いの考えを交流する。 【言語活動】 (設定の意図) 一人一人が課題に対して考えたことを納得できるか話し合うことで、筆者の立場になっているか確かめられるようにする。	能動型学習 (ポイント) 交流の目的を「筆者の立場になって考え理由が納得できるか確かめ合う」と明確に示し、目的に沿って班で検討しあうようにする。 【視点3】話し合いを進めるファシリテーション 班での確かめ合う活動では、全員の意見を促すことや、全員が納得することを目的とすることなど、話し合いの注意点を確認することで交流が深まるようにする。	
深める 10分	(3) 班で話し合った考えを全体に紹介し合い、課題に対する考えとして納得できるか検討し合う。	○白鷹さんの情熱、挑戦などの心意気が表れた発表内容と実際に行動したこととを分けて板書する。 ○ゆさぶりの発問として「宮大工、かわら職人」など他にも職人がいる中で、どうして「白鷹さん」のことなのかを示し、筆者の「いどむ」に込めた意図を確かめる。	拡大文
まとめる 5分	3 学習したことを振り返る。 (1) 学習課題に対する分かったことや気付いたこと、めあてに対する学習感想を書く。	評価：読む能力①(学習シート) B基準 筆者の立場になって、自分が考えていた「お薦めのところ」が見直せたことを書いている。	
広げる 5分	(2) 学習感想を伝え合い、次への意欲を高める。	〈B基準に達していない児童(生徒)への手立て〉 ○板書にまとめた意見から自分の考えと近い考えを選ばせることで、お薦めのところを確かめるようにする。 ○学習感想では、最初と授業終了時の自分の考えとを比べ、変容について書かせるようにする。 ○話し合いの様子などから学び方についても認め合うようにする。	